

水レター「びわ湖・よど川」

2009.11.20 【vol.6】

独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや淀川水系における取り組みに関する情報、さらに琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県、関係市町村及びその他関係機関）の皆様に直接配信しています。

目 次

- 1．なにわの秋2009・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 p
- 2．環境保全の取り組み（琵琶湖開発総合管理所）・・・・・・・・ 3 p
- 3．大阪府水道部 琵琶湖開発施設研修・・・・・・・・・・・・・・ 5 p
- 4．水都おおさか森林の市2009・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 p
- 5．水資源機構関西支社管内のキャッチフレーズ・・・・・・・・ 9 p
- 6．編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 p

未来へ つなごう びわ湖・よど川の水

なにわの秋 2009

関西支社 総務部長 谷 雅典

芝野博文さまのお別れの会が、10月15日に行われ、参列させていただきました。淀川水源地域対策基金の現職理事長としてご活躍いただいている直中の訃報に驚きました。大阪ガスの社長さまのお別れのお言葉にもありましたが、本当にお優しいお人柄で、遺影も穏やかな面もちのお写真でした。水資源機構の行う事業それぞれの使命にご理解を賜り、水源地域の地域振興に様々なご尽力を賜りました。心から御礼申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

以前、領木会長（淀川水源地域対策基金 元理事長 大阪ガス元会長）の秘書をされておられた古田秘書役（現 大阪ガス広報部長）から、

「谷さん ガス屋がなんで水資源の開発にお手伝いするかわかりますか。」

と聴かれたことがありました。

古田さんは、その昔、ガス会社のトップ同志の懇談の際に出たお話をご披露下さり、「お水がないと、ガスが売れないんですよ。」

と。確かに、水がないと、お鍋が空焚きになってしまうし、使えないのです。

凡夫の理解を促すべく、先達の軽口を牽いて諭して下さい、幅の広い視野に立った社会資本整備の重要性・社会システムのバランスを仰って居られたことを憶えております。今後ともご指導賜りたく存じております。

9月25日～27日は本年は、いわゆる“シルバーウィーク”の後半に当たりましたが、



泉布観

『泉布観』の一般公開が大阪市さま主催で開催されていきました。初日の夕刻は、平松大阪市長のご視察もあり、期間中ミニコンサートも行われました。古風な洋館建築ですので、常々どんなお屋敷なのかと覗き込んではいましたが、周囲の樹木をさっぱりされたなあ、と思っておりましたところ、このときばかりはライトアップもあり幻想的な夜宴でありました。造幣寮の応接所であったとのことですが、修復・耐震補強のため、地元の、天満音楽祭実行委員会さま・堀川地域社会福祉協議会さま・堀川連合振興町会さまが肝いりで寄付を募っておられます。カーテンも傷んでおり、床も今にも落ちそうな状況でした。天満天神のお祭りでもPRされていきました。

大川のサクラは、隅田川も足元にも及ばない、すばらしい並木です。秋は秋で、洋画油絵のようです。泉布観が修復されますと、桜ノ宮橋を挟んで、サクラの通り抜けにも彩りを添えることと期待致しております。

その週明けの早朝、某社の統一コスチュームの一団が、源八橋周辺の清掃ボランティアをされていました。花見の頃は場所取り・バーベキューの賑わう辺りです。いつも寝ぼけている公園の猫たちも眼を覚ましていました。びわ湖環境メッセ(10/21~23 長浜ドーム)にも出展されていたので伺ったところ、各営業所での取り組みとのことでした。当機構支社でも「クリーン大阪」に参加し、上町筋でゴミ回収をしております。



川崎橋から天満橋を望む

台風18号(10/7日夜半~8日未明)の猛威で、8日夕方の大川は材木を流し、9日の夕方でも浮き草、濁り水で、いつもは静かにレガッタの滑る大川が騒がしくなりました。

水都おおさか2009の催事は、水都おおさか森林の市2009(10/10・11 本レターで別報告あり)を最後に10月12日をもって閉幕されました。中之島で楽しく過ごした子供たち、子供のような大人たち、大人びた子供たち、宇宙船のような水上バス、某社水陸両用車も、紅葉の季節に衣替えといったところでしょう。

サクラの端っ葉が、黄色から朱色へと色付きました。大川はこれからまた、色付きが濃くなっていくところです。そして、花見の喧騒が恋しくなるのでしょうか。

* 泉布観は、完成の翌年、明治天皇のご行幸の際に命名され、「泉布」は「貨幣」、「観」は「館」を意味する、とのこと。

環境保全の取り組みについて

〔琵琶湖開発総合管理所 環境課 丹村直樹〕

琵琶湖開発総合管理所では、施設の維持管理に併せて、琵琶湖環境に配慮した環境保全の取り組みも実施しています。その一例について、紹介します。

湖辺域の連続性の再生

琵琶湖には、湖岸や内湖のヨシ帯、水田などを産卵・繁殖・生育の場とする在来の魚類が多く生息します。しかし、近年ではニゴロブナ等の固有種をはじめ在来魚が大幅に減少しており、その要因として、ヨシ帯や内湖などの湿地帯の減少、農地の用・排水分離や外来魚の影響などが考えられます。

このような背景を受け、琵琶湖開発総合管理所（以下、「当管理所」とします）では琵琶湖と陸域との間に位置する堤脚水路と隣接する機構用地を有効活用して、湖辺域の連続性の再生に取り組んでいます。（高島市新旭町太田、草津市新浜町など）

草津市新浜町の新浜 ビオトープは、当管理所が所有する新浜揚陸施設の敷地内を活用し、その隣接地に計画された大型商業施設の建設との調整を図り、揚陸施設の土砂を店舗造成用盛土材として利用し、併せてビオトープ整備を実施することとしました。この取り組みは国交省近畿地方整備局・滋賀県・南湖周辺自治体等と連携して“琵琶湖のゆりかご 南湖の再生”に向けて取り組んでいる「南湖再生ワーキング」での取り組みの一つとして位置づけられています。また、モニタリング調査や自然観察会等のイベントも行っており、調査結果から、コイ・フナ類などのビオトープへの進入や産卵が確認されています。当管理所ではビオトープが在来魚にとってより良い環境となるよう今後も関係機関や地元等との連携・協働のもと、取り組みを進めていきます。（：生物の生息空間）



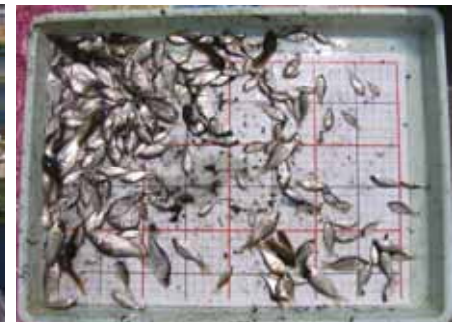
太田田んぼ池で確認された希少種のスジシマドジョウ



新浜ビオトープ計画平面図



運用開始後の新浜ビオトープ状況



新浜ビオトープで確認されたフナ類の仔魚

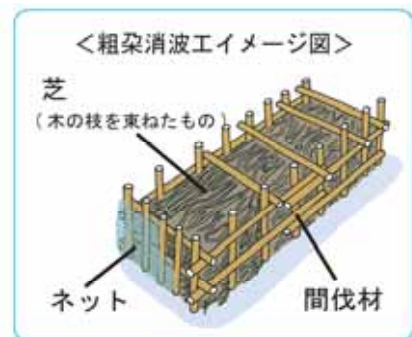
ヨシ群落の再生

琵琶湖周辺に広がるヨシ群落は、湖国らしい個性豊かな郷土の原風景であり、多様な生物の生息・成育の場として利用されています。さらに、水質の浄化としての役割も期待できること、ヨシ群落があることによって湖岸の侵食を防ぐなど、琵琶湖周辺に住む人々の暮らしもやさしく支えています。

琵琶湖総合開発において洪水対策である湖岸堤の設置を行うにあたり、ヨシ群落の再生を目指し、ヨシ植栽試験やヨシ帯の造成を実施しました。多くのヨシ植栽地区では順調にヨシ帯が形成されたものの、栗見新田地区では波の影響が強く、造成したヨシ帯が衰退してしまいました。ヨシ帯のさらなる再生のためにはヨシの植栽からヨシが土壌に定着するまでの間、一時的に波を防ぐ必要があり、この改善策として粗朶消波工を設置しました。

粗朶消波工は湖岸に打ち寄せる波の勢いを弱くし、ヨシが繁茂しやすい地盤環境をつくるためのものであり、材料に間伐材などを使用することで森林の整備にも役立っています。

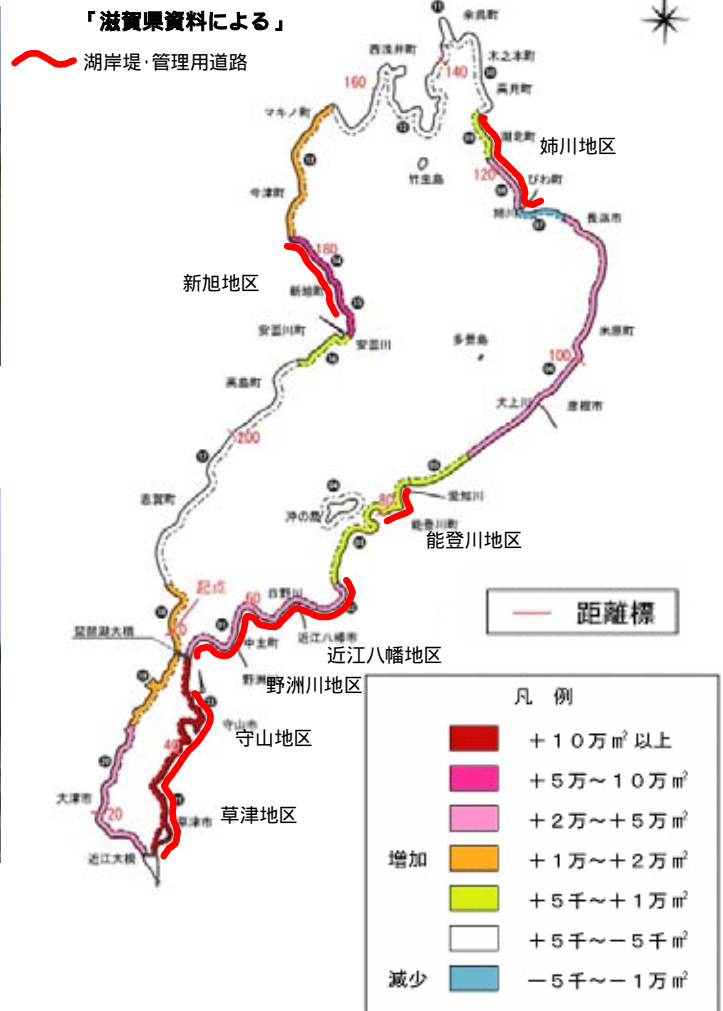
粗朶消波工の設置・ヨシ植栽は地域の方々等と連携して実施し、現在では良好なヨシの繁茂状況を確認しています。



ヨシ群落の変遷



地区別ヨシ群落面積の変化(1997～2007年度の変化)



琵琶湖開発施設現地研修会を開催しました（大阪府水道部）

さる8月27日（木）利水者の大阪府水道部から17名の方々に参加していただき、淀川最大の水源である琵琶湖で現地研修会を実施しました。水資源機構からは琵琶湖開発総合管理所と関西支社の職員5人が案内役を務めました。

この研修会は、水源地にある水資源機構施設の管理状況や水質等の環境に対する取り組みを直接ユーザーの目で見ていただくことを目的として、平成19年度から継続的に実施しているものです。

当日は晴天にも恵まれ、10時に浮御堂近くの棧橋で乗船した巡視船「翔泳」は快調に琵琶湖面を進み、雄琴沖総合自動観測所、沖之島水質自動観測所を經由して約1時間後には、安曇川沖の総合水質自動観測所に着きました。巨大な潜水艦のような観測所を前にして参加者はスケールの大きさに驚かれた様子でした。機構職員からは水質観測機器の概要や琵琶湖の水質状況を説明させていただきました。



翔泳に乗り込みます



琵琶湖の水質状況の説明



安曇川沖総合自動観測所

午後からは、烏丸半島に着岸し、湖南管理所で片山琵琶湖開発総合管理所長から、湖岸堤の維持管理や浚渫工事の内容及び出水時の内水排除では150以上もある樋門ゲートを短時間に全職員が手分けして閉めることなど、琵琶湖開発施設の管理の詳細などを説明させていただきました。

その後は、津田江排水機場まで移動して内水排除と水位保持操作についての説明を聞いていただきました。



津田江排水機場



排水ポンプ設備

さらに、湖岸堤を見ながら瀬田の唐橋を南下して瀬田川洗堰まで移動し、国土交通省の琵琶湖河川事務所の方から堰の操作についての説明を受け、洗堰操作は治水の他、利水補給や環境保全としても役だっていることを理解していただきました。



瀬田川洗堰



洗堰での堰操作の説明

また、隣接する水のめぐみ館「アクア琵琶」に移動し、琵琶湖の過去に起きた洪水被害や湯水の歴史などの展示を見学しました。ここでは琵琶湖のおいたちや環境への取り組みがさまざまな角度からわかりやすく解説されていました。

研修会終了後には大阪府の皆様からアンケートによる意見を頂戴いたしましたので主な意見を紹介させていただきます。

(感想)

大阪府の水源である琵琶湖での自動水質監視施設や、淀川の利水調整にかかる放流操作を行っている瀬田川洗堰を見学できて大変参考になりました。

水資源機構が浚渫した土砂を民間業者に提供する代わりにピオトープの整備を依頼した事例があり、地域と一体となった仕事の進め方が参考になりました。

排水機場のポンプは機械が小さいのに排水能力が大きく、水道施設と使用条件が異なると性能が全く異なることが理解できました。

(意見)

できれば、排水機場の一番大きなところを見学したかった。

琵琶湖周辺の環境の変化や、下水処理の状況も知りたかった。

水質についても近年の傾向とその原因等の資料があれば教えてもらいたかった。

(質問)

琵琶湖の水質を監視したデータをどのように活用されているか、また、異変が生じた場合に対応を取るために利用されているのですか。

南湖での水草の繁茂の原因は为什么呢、また、対策は考えているのでしょうか。

▶ なお、上記の意見や質問に関しましては後日、参加された方まで情報提供と質問には、速やかにお答えさせて頂きました。

他の利水者の方に対しても、このような研修会等の企画を考えております。希望される場合は、関西支社までご連絡ください。

関西支社総務部 利水者サービス課長補佐 近藤光次

水都おおさか森林の市2009

(関西支社利水者サービス課武田浩一)

「水都おおさか森林の市」が、秋晴れの10月10日～11日に桜ノ宮公園で開催されました。このイベントは、近畿中国森林管理局他の12団体の主催で、都市と森林を結ぶ川の役割や、森林や林業の大切さを、都市に住む方々に伝えることなどを目的とするものです。両日は、水源地域の特産品の販売、丸太切り体験、森や木に関する展示などの催しが行われ、好天にも恵まれ入場者は約3万人に達しました

水資源機構のブースでは、管内事業のパネル展示や、手作りのダムカードの配布などを行いました。訪れた方々からは、「淀川の水はどの範囲から集まるのですか」「琵琶湖の大きさはどれ位ですか」などのご質問、また「一庫ダムにはよく行きます」「日吉ダムはきれいですね」といったお声をたくさん頂きました。さらには、最近のマスコミ報道を反映して「最近のダム事業は大変ですね」「本当にダムは必要ないのでしょうか」というお声も聞かれました。

このイベントを通して、川やダムは比較的身近な存在として意識されていること、ダムの必要性についての正しい情報を求めている方が多いことなどが感じられました。また、水資源機構の職員として、多くの方々に、ダムの役割や効果について正しい情報を伝えることの必要性を改めて感じました。



【イベント開会式会場ステージ】



【水機構説明コーナー】

「水都おおさか森林の市2009」に参加して

(関西支社建築課中川政司)

「水都おおさか森林の市2009」は、水の循環、森林や林業の大切さを都市住民の皆さんに伝えるとともに、地球温暖化防止に資する美しい森林づくりへの参加を得ること等を目的に10月10日(土)、11日(日)の2日間、

桜之宮公園で開催されました。

水資源機構関西支社においては、このイベントの目的が機構の目指す方向と共通するものであることから、実行委員会のメンバーとして参加することとし、機構の展示ブースにおいて管内事業のパネル展示や説明、琵琶湖開発総合管理所・日吉ダム管理所での環境保全に関する取り組みなどについてのPRを行いました。

10月11日は、昨日と同様に秋晴れの好天に恵まれて、朝からたくさんの方がこのイベントに訪れました。水機構のブースでは他のブースのように品物を安く販売したり、何か体験できるような催しを行っていないため、人気としてはイマイチの感がありましたが、かなりの人がブースの前で足を止めて、ダムのパネルや環境保全の写真等に見入っていました。特に「琵琶湖・淀川立体地図」は、多くの方が実際に手で触ってダム周辺や知っている場所の地形を確認されていました。また、展示物である日吉ダムの流木から作った堆肥（2kg袋）は、販売物と勘違いする人も多く、「これ、なんぼ？」と何回も聞かれ、その都度、売り物ではない旨を説明しましたが、さすがに「森林の市」だけに、こうした品物は人気が高いことを実感しました。運搬の手間等の関係でなかなか難しいかも知れませんが、日吉ダムでは事務所のイベント等で肥料を無料で配布しているとのことですので、来年はこの場で配ることも考えてみてはどうかと思います。

イベント全体の状況ですが、来場者先着順の苗木プレゼントや景品付きスタンプラリー、林業に関連する製品（主に木製品）の安価販売、おもちゃや木製品の製作体験コーナー、手作り食品販売等々、訪れた人が楽しめる催しがあちらこちらで行われており、人気のブースでは列ができるほどの盛況でした。なお、今回のイベントでは、90近い数のブースが開設され、2日間の来場者数は約3万人だったそうです。



【日吉ダムの流木から作った堆肥】



【説明コーナー】

水資源機構関西支社管内のキャッチフレーズがきまりました。

水資源機構関西支社管内で使っていくことを目的にしてキャッチフレーズを作成しました。管内の管理所や建設所に勤務する職員に応募を呼びかけ、応募の中から、次の3つの作品を選定しました。今後、関西のキャッチフレーズとして、いろいろな場面で使用していくことといたします。よろしくお願いいたします。

- 1位 **未来へ つなごう びわ湖・よど川の水**
- 2位 **ありがとう びわ湖・淀川 水の恵み**
- 3位 **大事にしよう 近畿の水 琵琶湖・淀川**



編集後記

今年の9月に民主党政権に変わり、ダム問題がこれほど大きくクローズアップされたことはなかったのではないのでしょうか。水資源機構のダムも近畿では川上ダムと丹生ダムが対象となっております。

今年の夏は全国的に晴れの天気が続き、降水量が少なかったため、一時は渇水が心配されましたが、10月に入り上旬と下旬に2つの台風の影響を受け、水資源機構が管理するダムや湖沼は水位が平年並みに戻って、当分渇水の心配はなさそうです。10月8日未明に愛知県に上陸した台風18号は三重県と奈良県に大雨をもたらし、各地で洪水の被害が発生しましたが、青蓮寺ダム、室生ダム及び比奈知ダムの3ダムは連携操作による洪水調節を行い、下流の名張市街での浸水被害を未然に防ぐことが出来ました。この成果が認められ名張市長から木津川ダム総合管理所長に感謝状が贈られました。水資源機構の職員として、これまでの苦勞が報われたような気がいたします。18号台風に対する洪水調節の詳細は水資源機構関西支社のホームページをご覧ください。

<http://www.water.go.jp/kansai/kansai/index.html>

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡下さい。(耳寄りな情報もお待ちしています。)



<mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp>